
急性看護学特論
Critical Care Nursing
1年次前期・選択
2単位・30時間

池田敬子 准教授
坂口桃子 非常勤講師

【概要】

急性期病態にあり侵襲的治療を受ける人々とその家族（以後、クリティカルケア対象）が体験する衝撃と苦悩を理解し、急性期から回復期に至る過程を最適に援助するために必要な方法及び理論を探求する。これらを通して、自らの急性看護学研究課題の明確化に発展させる。併せて、急性期看護臨床におけるトピックについても話題提供を行い今後の動向について考える機会とする。

【到達目標】

1. クリティカルケア対象の体験する衝撃と苦悩を理解する
2. 衝撃や苦悩を体験するクリティカルケア対象の認識・行動を説明する代表的な理論を理解する
3. クリティカルケア対象への看護について今後の展望と研究課題を見出す

【授業内容・スケジュール】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 クリティカルケア対象の理解① 対象の衝撃と苦悩事例から
- 第3回 クリティカルケア対象の理解② 対象の衝撃と苦悩事例から
- 第4回 クリティカルケア対象の理解③ 対象の衝撃と苦悩事例から
- 第5回 クリティカルケア対象の理解④ 対象の衝撃と苦悩事例から
- 第6回 クリティカルケア対象の認識・行動の理解① ストレス、ストレスコーピング
- 第7回 クリティカルケア対象の認識・行動の理解② 危機理論
- 第8回 クリティカルケア対象の認識・行動の理解③ コントロール感覚
- 第9回 クリティカルケア対象の認識・行動の理解④ 家族看護
- 第10回 クリティカルケアの実践① 臨床判断
- 第11回 クリティカルケアの実践② Advocacy
- 第12回 クリティカルケアの動向① 特定行為研修制度の背景
- 第13回 クリティカルケアの動向② 急性期・クリティカルケア領域における特定行為研修とは
- 第14回 クリティカルケアの実践③ 倫理的判断とジレンマ
- 第15回 まとめ

【評価】

プレゼンテーション（文献選択、資料作成技術、発表力）70%
ディスカッションへの参加度：30%

【テキスト・推薦参考図書】

講義の中で適宜紹介する

【その他】

授業は、ゼミ形式による担当者のプレゼンテーションとディスカッションとする。授業運営の主体は学生である。教員は、学習の全プロセス（文献選択、資料作成、ディスカッション等）で助言を行い、学生の学習を支援する。